

2016/12/11

森下明彦（メディア・アーティスト／美術・音楽・パノラマ愛好家）

○「ビブリオテーク208」

所在地：神戸市中央区

設立：2010年4月

基本的な考え方

- ・自身の研究や制作のための資料。映像や美術の分野に40年以上関わっているうちに、自ずと集ってしまった
- ・「もの」としての資料（デジタル・データとは別な存在と重要性）：コピーやスキャンしても面白くない（読めたら良い、ということではない）
- ・「公」ではない「私」：しかし、「パブリック」でありたい

特徴

- ・収集者の軽佻浮薄な気質を反映した、雑多な分野の中途半端な集積（一般的な「コレクション」とは異なったあり方）

主な所蔵分野

- ・実験映画・個人映画・アマチュア映画関連
- ・美術関連
- ・アーティスト・ブック
- ・デザイン関連
- ・メディアの歴史
- ・その他

分量

- ・不明。開設のため現在の場所に移動した際、段ボール箱で約300箱ほどあった（ように記憶する）

形態

- ・作品：絵画、版画、フィルム、その他
- ・資料：書籍、雑誌、カタログ、エフェメラ（DM、チラシ）、刷り物、絵葉書、地図、その他

○収集

- ・系統だって組織的に行う、の全く正反対。偶然と出会いに依存している
- ・それでも古書店の目録が届いた際は、すべての仕事を中断してそれをひたすら見る
- ・日本絵葉書会例会に参加している
- ・探して何年か経つと、自ずと資料の方からやって来る（ことがたまにある）
- ・ちょっかいを出して思い付きで収集したものが、後日役に立つ（ことが極くたまにある）

○目録

- ・「美術と本」というテーマで、後述（2006年5月）の催しの時に作成した
- ・その後はようやく最近、「アマチュア映画関連雑誌」を作成したのみ

○活用

- ・資料室自体が手狭なため、図書館的な利用は行っていない。個人的な伝での資料の閲覧に応じている位である
- ・後述するように、本拠地を出ていく「移動美術資料室」を行っている
- ・将来的には何らかの公開を行いたいが、未定

○これまでの対外的活動

- ・「ビブリオテーク・エフェメール（一日だけのアート図書館）」：資料を拡げ並べる
C.A.P.（神戸市／2006年5月20日／美術資料室開設以前）
- ・「移動美術資料室」：各地に出向く
C.A.P.（2011年6月12日から2年間、20回開催）
de-sign de>（大阪市／2011年9月17日）
来年（2017年）予定：西宮アートサンク／まちライブラリー（西宮市）

○収集品の事例

- ・アタナシウス・キルヒャー『光と影の偉大な術』（第2版／1671年）
- ・パノラマ解説絵図「【仮題：普仏戦争セダンの戦い】」（大阪難波停車場前パノラマ館／1891年1月）
- ・パノラマ館ポスター【?】「普仏戦争大油画」（発行元不詳【大阪（阪堺鉄道）難波停車場前パノラマ館?】／19世紀末）
- ・「全世界唯一観物 シ子マトグラフの広告」（仏国自動幻画協会／19世紀末）
- ・絵葉書：駒田好洋（20世紀初頭）

以下、珍しく集めることに注力している分野：戦前のアマチュア映画関連資料

- ・「ベビーノート」（札幌ベビー映画會合／第2号／1927年7月）
- ・「ベビーキネマ」（ベビー・キネマ・クラブ／第2号／1927年9月）
- ・「ベビーシネマ」（京都ベビーシネマ協会／第1巻第9号／1928年10月）
- ・「パターベビー映写会」（名古屋ベビーキネマ倶楽部／1930年代）

*貫戦史という視点の重要性

○最後に（番外の話）

- ・実は私自身がメディア・アーティストとして、幻燈、紙芝居、フィルムやビデオによる作品制作を行っていて、作品やネガなどの保存問題に悩んでいる。一種のアーティスト・ラン・センターを立ち上げようと検討中であるが、なかなか難しい
- ・これは一人私の問題だけでなく、全国には多くの映像作家がいて共通の頭痛の種であり、この場を借りてお話しした次第である